

新生が期待される低炭素産業への技術基盤を紹介

第19回目のニュー環境展(東京会場)は去る5月25日に開幕し28日までの4日間、東京・江東区有明の東京ビッグサイト(東京国際展示場)を会場に開催した。展示施設としては東展示棟の全体(東1~6ホール)と隣接する屋外会場を使用し、環境技術に関連する528社が2,036小間を展示し17万2,515人を動員した

地球温暖化防止に向け国内森林資源を基盤にした新しい環境産業システムに技術を提案したのは独自開発のゴムクローラーと油圧機構を搭載した特殊車両を製

造する(株)諸岡(www.morooka.co.jp)、生物資源のエネルギー利用機械やコンポスト化による資源循環利用機械を提供する緑産(株)(www.ryokusan.co.jp)、木質系破砕機と金属系スクラップ処理機を提供するマルマテクニカ(株)(www.maruma.co.jp)等の企業で林業資源の有効活用を出発点に新生が期待される低炭素産業への技術基盤を紹介した。諸岡は森林整備で排出する林地残材や木質系建築廃材、硬質プラスチックまで効率良く破砕して資源を無駄にしない自走式木材破砕機MCシリー

ズ、破砕機とともにラインで使用でき破砕物を現場で3種類のサイズに分別できる自走式ロータリースクリーンを中心に、また、緑産は間伐材・林地残材などから低コストで木質チップを生産する大型自走式木質チップ製造機のウッドハッカー・メガ、低価格でコンパクトな牽引式木質チップ製造機のウッドハッカー・ダイナミック、多様な投入材料から木質燃料を生産する大型木質破砕機のクランパーを中心に屋内・屋外のダブルブースで最新技術を展示・実演した。

富士ハウス工場跡地を購入 住宅向け木材倉庫に本格稼働

名港海運(株)(本社・名古屋市港区入船2、荻原茂社長)は愛知県弥富市楠2の富士ハウス(株)名古屋工場跡の敷地と建物を投資額23億6,000万円で購入、住宅建築向け木材を中心とした管理倉庫・西

三区物流センターとして今6月半ばに本格稼働させた。

敷地面積は5万3,932㎡の二階建て倉庫は延べ床面積は同社2番目の規模を有する4万5,596㎡。

同社の国内倉庫で30ヵ所目となるもの。年内に愛知県内に点在する27の倉庫の内、数ヵ所の賃貸倉庫を同センターに集約させることになる。